

日本社会福祉士会

大槌町地域包括支援センターをご支援下さった皆様へ

震災から9カ月目を迎え、大槌町は雪がちらつき寒さを感じるようになりました。皆様には、震災後間もない津波の爪跡がそのままの悲惨な状況のなか、4月27日から11月30日まで切れ間なく578人の皆様にご支援いただきました。日本社会福祉士会様と支援して下さった活動者の皆様、活動者の皆様の御所属先へ心より御礼申し上げます。

避難所のアセスメントから始まり、義援金の受付事務、各種入力作業、仮設入居後の高齢者台帳作り・基本チェックリストの聞き取り、その他にもたくさんの事をお手伝いいただきました。6月からは仮設訪問、台帳作りと基本チェックリストの聞き取りを主にしていただき、その台帳は高齢者の把握と相談の基礎となり、基本チェックリストの「うつ」の該当者に対して包括保健師がタイムリーに延べ232人の訪問を行い、継続支援することができました。社会福祉士の本来の仕事ではないのですが、予防事業の基礎となることをお手伝いいただきました。高齢者対象の仕事以外の方は、わからない面もあった事と思います。現在、町の検診と併せて、介護予防検診（生活機能検査）を行っております。基本チェックリストが済んでいる方々が多数いることで、検診がスムーズに進み皆様の活動が確実に私たちを助けて下さっています。

大槌町は、現在も505人の行方不明者がおりますが、8月11日に全避難所を閉鎖することができ、応急仮設住宅へ2,080世帯が入居し、大変ながらも住まう場が決まり少しずつ落ち着いてきたように思います。仮設住宅訪問の際には、被災した町民の多様な訴えを直接聞くこととなり大変な思いをされ、色々なことをお感じになったことと思います。私たちは一人一人の全ての希望や訴えを聞くことはできませんが、震災後町民の強さとたくましさも感じてまいりました。力不足ではありますが、本当に支援の必要な方に耳を傾け、向き合っていかなければならないと思っています。

支援最終日の翌日12月1日は、活動者の皆様がいらっしゃらないことをとても寂しく思いました。交通の便も悪く遠い大槌町へ駆けつけてくださり、支援していただき、同じ時を感じて下さっていることが私たち地域包括支援センタースタッフ皆の心の支えになってきたのだと思っています。混乱の中、信頼できる社会福祉士の皆様からご支援いただいたと思った日のことを私たちは忘れることはないと思います。本当にありがとうございました。

受け入れる側として、心配りに欠けたことや、ご不満に感じたこともあったことと思いますが、この災害状況に免じてお許しいただきたいと思います。

この先、このような悲しいことが起こらないことを願いますが、この町で見たこと、そして感じたことをご自分たちの住む町へ、事業所へ伝え、今後の災害へ備えていただき、少しでもお役に立つことができばうれしく思います。皆様の今後の健康とご活躍をお祈り申し上げます。これからも大槌町へのご支援いただければ幸いです。

岩手県大槌町役場民生部福祉課

大槌町地域包括支援センター 職員一同